

題字：木版  
西野一男さん



KAGAYAKU

# かがやく

生涯学習情報紙：生きがい探しのパートナー

感動人生！ここに生きる元気な人間びと



▲人生の思い出づくりに記念撮影



▲生きがいを満喫！ この表情！



▲人生謳歌！ 悠友万歳



▶散策こそ学びの世界  
お花見ウォーク



▲生涯学習フェスティバルにて ひときわ目を引いたパネルと模擬店



▲そば打ち体験 達人を目指して



▲環境美化ボランティアもみんなで仲良く



▲アリットの学芸員による講座で勉強



▲花と語ろう！ 花から学ぼう！



▲野外サロンと行きましょう！

「やりたいことをやって、第2の人生を楽しもう」

\*平成20年度に開催された「第6回市民のいるま塾」(テーマ・充実したセカンドライフ)を受講した修了生の中から、『悠友会』は発足しました。キーワードは「自由に楽しく学ぶ会」。市民のいるま塾で学んだことや体験したことを生かして実践しようとして、6人でスタートしました。

最初の活動は親睦を兼ねたお花見。それから今年で6年を迎え、会員は25人に増えました。「仕事を終え、子供も独立し、生きがいのある第二の人生を気の合った仲間と共に楽しみたいというエネルギーが豊富な人たちが集まっています」と、代表の奥田正人さん。

「会員相互の交流と親睦を深め、それぞれの趣味やキャリアを生かして、地域に貢献することを目指しています。でも何より、まずは心身ともに健康で、豊かな楽しい生活を営むことが重要です。自分の住んでいる入間市周辺や、その近隣の歴史・文化を学び、自然に触れながら、健康づくりや仲間づくり、そしてボランティア活動を行っています」。



■悠友会代表 奥田正人さん(70歳) 向陽台

共に学び、共に生きがいを分かち合う

毎月の活動は会の趣旨に沿った行動を実践。会員からの企画提案をもとに計画をたて、史跡探訪や見学、野外研修、里山散策等を行い、また樹林の緑や空気に触れながら、四季折々の花めぐりや健康づくりの為にウォーキングなどを楽しんでいます。

昨年の生涯学習フェスティバルではパネル展示に加えおでんを販売し、その売上げ益を社会福祉協議会に寄付するなど、その活動は多岐にわたっています。

「今後も様々な分野の行事を企画し、新たな体験や発見をみんなで楽しみたいですね。『悠友会』の悠友には、青春時代にかえて友と一緒に学び、生きがいを分かち合うことによって、悠々と末永く付き合っていくという意味が込められているんですよ」。

好奇心旺盛で意欲的。どこまでも元気な仲間たちにエールを送ります。

\*市民のいるま塾

平成15年度から「入間市生涯学習をすすめる市民の会」の主催で開催されていた(平成22年度 第8回で終了)連続講座。年度毎にテーマを変えて実施し、悠友会以外にも多数のグループが市民のいるま塾をきっかけに結成された。



■フランス語講師 嶋崎裕子さん(44歳) 久保稲荷  
**楽しくフランス語を学びませんか？**

「ボンジュール・ア・トゥース」「ボンジュール・マダム」フランス語のあいさつを交わして、『楽しいフランス語』の勉強会が明るい日差しの差し込む部屋で始まりました。

平成24年10月に久保稲荷公民館で始まった『楽しいフランス語』。毎週水曜日の月4回、初級コース、中級コースの2コースで行われ、現在12人が講師の嶋崎裕子さんの指導を受けています。受講生は年配の方が多く、入間市だけでなく近隣市からの参加者もいます。

嶋崎さんは、高校時代に見た「ベルサイユのばら」に感動してフランスに憧れ、上智大学外国語学部フランス語学科に入学しました。卒業後は語学を生かした仕事に就きましたが、結婚を機に家庭に入り、フランス語と離れた生活を送っていました。

「7年前、友人の急な死に直面し、人生について深く考えました。『今しかないなら何をやるだろう』自問を繰り返しましたが、答えはただ一つ『フランス語をもう一度学びたい』。それがきっかけで再び勉強を始めました。ラジオ講座や、語学学校にも通いましたが、結局インターネットや仏語新聞を頼りに独学で続けまし

た」と嶋崎さんは話します。

その結果、平成24年に合格率が10%という難関の実用フランス語技能検定の1級に合格。特に成績優秀者としてエールフランス賞を受賞しました。この検定に合格したことがきっかけで声がかかり、『楽しいフランス語』の講師を引き受けました。

10時から始まった勉強会に参加した人たちは参考書とノートを広げ、嶋崎さんが白板に書く文例を熱心に発音し、書き込んでいました。会話が中心だと基礎を覚えることができず、この形式にしたそうです。

国家資格の通訳案内士でもある嶋崎さん。今後は外国からの観光客を、心からのおもてなしで迎えようと勉強を続けています。

◀懇切丁寧に説明する嶋崎さん



▲熱心に聞きいる受講者



■いるま歌声喫茶同好会 川村江一さん 豊岡  
**歌を人生の灯火にしよう**

「春は名のみ 風の寒さや 谷のうぐいす 歌は思えど・・・」『早春賦』で『いるま歌声喫茶同好会』が始まりました。毎月第2水曜日の午後に行われています。

歌唱のリーダーは青柳常夫さん(80歳)、アコーディオンの伴奏は川村江一さん(77歳)、ピアノは川村さんの娘の磯田めいこさんです。

昭和30年代に、歌声運動は新宿のロシア料理店が始まり、全国へ広まっていったといわれています。その初代リーダーが青柳さん、初代のアコーディオン奏者が川村さんです。

12年前に台東区から引越してきた川村さんは、入間市でも歌声の活動を行いたいと考えていました。

「中央公民館の近くにあった喫茶店が協力してくれたので同好会を始めました。参加者がどんどん増えてきたので、広い会場を探していたら、中央公民館の文化活動室を借りることができて、やっと定着しました」。

会場のボードに、リクエスト曲を含めて30の曲名が書いてあります。スクリーンに次の曲の歌詞が映し出されると、40人が一斉に歌い始めます。プロジェクトには3000曲が入れているので、大抵のリクエスト

トに答えられます。

「20代の時に、猛烈に働いて貯めたお金で、1年かけてアメリカとヨーロッパを回り、音楽修行をしました。この経験が自分の音楽の基を作ります」。昔を振り返る川村さん。

「懐かしい歌を大勢で歌って、ストレスを吹き飛ばそう」が同好会のモットー。10キロもある重たいアコーディオンの演奏は、背中に負担がかかり相当な重労働ですが、「楽しく歌いたい」という人たちの期待に、これからも応えていくそうです。



▲2代にわたる名コンビ



▲歌友だちが増えました



■視覚障害者ガイドヘルプの会「あいあい」 佐々木仁一さん71歳 東町  
**「目」となつて手助けを**

定年で会社を辞めて自由な時間ができたので、何か社会奉仕のような活動がしたい。このように考えて目標を決め、資格を取って実践している人がいます。視覚障害者ガイドヘルプの会「あいあい」(会長 森本文江さん、会員18人)のメンバーの佐々木仁一さんもその一人です。

ガイドヘルプとは、視覚障害者を安全に目的地まで誘導する方法です。この会に入った動機を、佐々木さんはこう話してくれました。

「大型スーパーに行った時に、ここで火災が起きたらどうという人が困るだろうかと考えました。目の不自由な人だ。そういう人たちの役に立つことをしようと決めました。たまたま見た市の広報に「あいあい」の紹介記事が掲載されていたので、早速連絡を取って入会しました」。

活動に役立つと勧められてヘルパー12級の資格も取得。デイサービスの施設で仕事をした時に、80代の男性の専属になり、食事や歩行の介助をしました。立つのがやっとだったのに、少しずつ歩く訓練が効果をあげて、家族にも感謝されたそうです。「あいあい」では、会員の技術向上の研修を実施すると共に、学校での

福祉学習の推進に協力しています。

2月には、藤沢中学校で実施しました。中途失明した福井さんのお話を聞いた後、1年生が外出介助の実習。佐々木さん始め6人の会員が模範を示し、二人一組になってアイマスクをした人を誘導しました。



▲楽しかった交流会



▲「段差に気をつけて」



▲福井さんと盲導犬「ネネ」

「あなたのそばに目の不自由な人がいたら、『何かお手伝いしましょうか』と声をかけてください。自分に気が留めてくれる人が周囲にいると分かるだけでも、安心できるのです」。佐々木さんから私たちへのメッセージです。

■いけばなこども教室 藤沢  
**花の力で元気に！**

ドアを開けると、春らしい雰囲気漂ってきました。参加している小学生それぞれの前には、アイリスの紫紺とスイートピーの黄色がみごとなコントラストで生けられています。

「伝統文化こども教室」事業の一環で始まった『いけばなこども教室』。

藤沢公民館では平成18年9月に始まり、いけばなの教授本吉豊聖さんたちの指導により現在に至っています。集まった7〜11歳の子どもたちが

始めたきっかけは、いずれも誘われてというものでしたが、すでに4年も続けている子もいました。中には男の子もいて、話を聞くと、「お兄ちゃんもやっていたので」とのことでした。

どの子も「花が好き」「楽しい」と月1回のこの時間を心待ちにしています。先生たちが一人一人に「きれいに生けられたね」「この枝がいいね」「葉っぱはこのそばに」と声をかけ、「ハサミはこうやって使って」と実際に茎を切って見せます。

「家で生けるとパパが喜んでくれる」との声も聞かれました。公民館の文化祭には子どもたちも出品し、いろいろな人に声をかけてもらい、励みになっているようです。先生方は「ここで、しばし花と向



き合つて、元気になって帰っていく子どもたちの姿を見るのが嬉しくて続いています。『自然の美しさに感動する心を育んでいきたい』と語ってくれました。

花の静かな力に改めて気付かされる一時でした。



▲文化祭出展作品



▲見事なできばえのお花



▲こども教室の仲間たち



▲うまく生けられるかな？

\* 伝統文化こども教室  
 日本の伝統文化に関する活動を、子どもたちに体験・修得させ、次世代に継承し、発展させることを目的に、平成15年度に始まった文化庁委嘱事業(平成22年度で事業終了)。実施された分野はいけばな以外にも、芸能、茶道、舞踊ほか多岐にわたる。



作家活動を長く続ける秘訣

西沢正太郎さん(91歳) 高倉

毎年3月1日に発行され、現在36号となる「文芸人間」。この文芸誌の発刊当初から36年間編集委員を務める児童文学作家の西沢正太郎さん。その功績が讃えられ、今年1月、入間市有功表彰を受賞されました。

長続きの秘訣をお伺いすると、「登山で鍛えた体力と精神力だよ」と即答。現役の作家に「ぜひ寄稿文を！」と無理な依頼をするも、快く引き受けていただき、なんと2日で書き上げてくださいました。

「家族登山の楽しみ」

私の最初の登山は旧制中学時代。豊岡実業5年、川越地方5校の軍事演習の最終日、名ガイド付き、御殿場口からの富士登山。昭和14年16歳。次いで吉田口から御殿場口へ。戦後初の夏、同僚3人で。昭和21年23歳。何れも麓から歩きづめで山頂往復をした。然し、日本一の高さを誇る富士は独立峰ゆえ、単調で面白くない。以来、富士は遠望がよいと敬遠して登ることはなかった。

そこで、北アルプスを主に、中央、南アルプス、関東甲信越から東北まで名山と呼ばれる山には大方登り、時には危険に迫られ退くこともあった。小学校教師の身では夏休みが好機。息子2人が小学校へ入学するのを待って家族登山が実現した。

ちなみに、槍ヶ岳登頂は、小学4年と6年の息子と、細君、私の4人。翌朝は隣接の大喰岳山頂の雪渓で走り回り、振り返って、富士山の望遠に恵まれた。ガイドなしの自由さの中でこそ、家族登山の楽しみありか。細君と2人だけでは、室堂からの立山縦走。

山頂の雄山神社で神主さんに祝詞をあげて頂いた幸運が忘れられない。これをタネに「三〇〇三メートル(雄山の標高)の結婚式」という童話をもとに、私が欲張って、もうひと息もうひと息と、遂に別山へまわり道、すぐそこに剣岳の雄姿と対面する。再び室堂への急峻な下りも大変だったが、前日予約していた雷鳥荘に昼過ぎ早々に到着。泊り客は少なく、一部屋を頂く。硫黄の吹き出す地獄谷を背に温泉の風景も快適で、細君の疲れも解消した。

北アルプス最奥の雲ノ平行き。細君には無理と、息子2人を連れ、長年の夢を果たす。ところが山荘前、激しい雷雨。雨具のポンチョの助けで、ごった返す山荘に押し込む。翌日は快晴。薬師岳を目指し早立ちしたのは、我が家族3人だけ。翌日の登頂も悠々。日本の自然の豊かさ満喫は登山にこそ。歎びの回想尽きることない91歳、今の私である。



◀ 八方尾根にて 80歳のころ

西沢正太郎

プロフィール

大正12年入間郡豊岡町現入間市生まれ。小学校教員を務めるかわら、「プリズム村誕生」で講談社児童文学新人賞を、「青いスクラム」で小学館文学賞を受賞。91歳という年齢でありながら、現在も精力的に執筆を続け、生涯学習の実践者として活動している。同氏の作品は、「文芸人間」にも数多く掲載されている。

4月15日(火)発売！  
子育てわくわくマップ2014  
市内の遊び場・病院・保育所などの子育て情報満載！  
制作ボランティア募集中！  
市役所・書店等で販売 350円  
詳しくは…http://irumap.net/

6th Anniversary  
JAY'S GARDEN Live!  
三世代で歌おう！笑おう！祝おう！  
6月29日(日) 15時～  
入間市産業文化センター  
チケット好評発売中！  
前売り券：大人 3,000円  
子ども 2,500円  
詳しくは…入間おやこ劇場  
TEL 2962-7719

かがやく 生涯学習情報紙 「かがやく」  
広告募集!!  
「かがやく」は年2回発行し、広報しているまともにも全戸配布する生涯学習情報紙です。各種宣伝や募集など、広告を掲載してみませんか？  
お気軽にお問い合わせを！  
担当：市教育委員会生涯学習課  
TEL 2964-1111(内4124)

◎いるま生涯学習フェスティバル実行委員を募集します！  
第20回いるま生涯学習フェスティバルの実行委員を募集します。詳細については広報いるま4月15日号をご覧ください。  
◎「いるま学びの場」生涯学習サークル・教室情報募集！  
市と生涯学習をすすめる市民の会では、サークルや教室の情報を冊子、インターネットで提供しています。そのため、以下に該当するサークル・教室情報を募集しています。  
☆生涯学習に関わっていること。 ☆入間市内に活動場所があること。  
☆一般市民が参加できること。 ☆年間を通して継続的に活動していること。  
☆政治活動・宗教活動・悪質な商法でないこと。

編集後記

●市報が届くと一番に人口統計を見ます。増減の要因は色々あるのですが、何とか15万都市を維持してほしいと願っています。(ST)

●何もしなくても1日は1日。同じ1日なら時間をうまく使い分けて活動できれば、そこには有意義な1日が生まれてくるでしょう。(HT)

●2月の2度の大雪にはびっくり。こんなに積もったのを目にしたのは初めて。しかし雪があるから、あちらこちらから雪かきの音が。隣近所の協力で隣間に道路から雪が消えた。すばらしい力。(MK)

●物言わぬものたちに、時には慰められ、励まされ、支えられているのだなあと気付かされました。(NA)

●「キヤー」「ワーワー」と夢中になって遊んでいる子どもたちの元気な声を聞くと迷いが吹き飛び、心が躍ります。子どもの声は活力源です。(NT)



企画編集：「かがやく」編集委員会  
発行：入間市教育委員会生涯学習課

お問い合わせ 事務局  
入間市教育委員会生涯学習課  
〒358-8511 入間市豊岡 1-16-1  
TEL 04-2964-1111(内線4123) FAX 04-2964-4841